

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について 申請締切 4月12日	80
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について 4月1日から	80
○「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ	81
○今年もやります！ こりゃ映像！2019—ミニ動画コンテスト—（再） 応募締切 7月31日	81
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について（再） 応募締切 3月31日	81
○学生会員入会時の特典について	82
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	82
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集！！	82
○2020年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	83
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	84
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	85
○平成30年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について ㊦ 3月7日開催	86
○水土文化研究部会第16回研究会の開催について（第2報） ㊦ 参加申込締切 2月20日	86
○平成30年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第2報） ㊦ 3月9日開催	87
農業農村工学会論文集内容紹介	88
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	89
受入れ図書	90
学会記事	90

※巻末に2019年度大会講演申込料納入用の郵便振替用紙が綴じ込んであります。

### 第87巻第3号予定

展望：豊川用水通水50周年を迎えて：勝又久幸

小特集：豊川用水通水50周年

報文：豊川用水のあゆみ：小酒井 徹

報文：豊川用水一期事業の技術的特徴：有野 浩

報文：開水路と管水路を併用した複合型水路の管理：吉久 寧ほか

報文：豊川用水がもたらした地域の発展：岩本 巧ほか

報文：豊川用水における小水力発電の取組み：赤尾博史

報文：豊川水系における上下流交流：畔柳英二ほか

報文：山岳水路トンネルの地震対策工法の評価：細山田 真ほか

### 技術レポート

北海道支部：地下灌漑利用のための効果的な心土破碎方法の検討：平沢 俊ほか

東北支部：狭隘部における函渠改修事例：菊池陽一

関東支部：ICT建機による農地基盤の造成事例：小河原武志

京都支部：畑地帯における土壌流亡対策：立川清之

中国四国支部：平成30年7月豪雨からの広島県農業の復興に向けて：御手洗 毅

九州沖縄支部：熊本県立農業大学校水源井戸の機能回復工事：高田寛行ほか

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成31年2月8日	京都支部	平成30年度地方講習会・支部研修会 Ⓟ	—	金沢市	87巻1号
平成31年2月27日	水土文化研究部会	第16回研究会 Ⓟ	地方(じかた) well-being !!	東京都	87巻1,2号
平成31年3月7日	全国農村振興技術連盟・農業農村工学会	平成30年度東京フォーラム Ⓟ	農業農村の防災・減災と国土の強靱化～ため池などの農業水利施設の緊急対策・国土強靱化対策の動き(平成31年度農業農村整備関係予算政府案の概要)	東京都	87巻2号
平成31年3月9日	農業水利研究部会	平成30年度研究集会 Ⓟ	農業用水管理とICT(仮)	東京都	87巻1,2号
2019年8月27日	創立90周年記念式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月4～6日	大会運営委員会	2019年度(第68回)農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	東京都	86巻12号 87巻1号

## 2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2019年度は、規程第4条(1)の「特定分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込みください。

## 記

## 1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)

## 2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 2019年度中(2019年4月から2020年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

## 3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

## 4. 申請締切 2019年4月12日(金)

## 5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

## 6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階  
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会  
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

## 会費等の「振込手数料」のご送金者(会員様等)負担について

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、平成31年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者(会員様等)の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

## 【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPD 利用料
- ③ 農業農村工学会大会講演会の講演発表等の申込料 など

「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ

2019年6月に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格を割引きして特別価格で販売中です。

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805 円	4,628 円
特別価格	一般会員 3,000 円 学生会員 2,500 円	—

今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日（水）17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ（未定）
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞 金 最優秀賞（1作品）2万円  
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
  - ① 動画を作成する。
  - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
  - ③ タグに3つのワード（jsidre2018, こりゃ映像, (テーマ未定)）を入れる。
  - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
  - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画 WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。  
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. 参考資料

- ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法  
<http://douga-tec.com/?p=4974>
  - ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門  
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
  - ・ 【2017年版】Youtube（ユーチューブ）に動画をアップロードする方法  
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
  - ・ 動画作成のヒント（超かんたん動画投稿法）  
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2018 結果（テーマ：私のかんがい施設遺産）  
最優秀賞：万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水  
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治  
高岡市土地改良区 北川 孝  
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXF0o>  
優秀賞：田の下の力持ち、府中用水  
東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛  
[https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy\\_gQ](https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ)

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について（再）

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格
  - (1) 学生会員であること。（応募時に入会可）
  - (2) 年4回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること。（旅費を支給します。）
  - (3) E-mail, Webが使える環境にあること。
  - (4) 指導教官の承認を得ること。
2. 任 期 平成31年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可。

3. 募集人数 2名。
4. 応募締切 平成31年3月31日（日）
5. 応募方法
 

下記①～⑧を記入の上、[henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)までメールでお送りください。

  - ① 会員番号、② 氏名、③ 大学名、④ 平成31年4月からの学年、⑤ 年齢、⑥ 承認を得た指導教官名、⑦ 連絡先メールアドレス
6. 問合せ  
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
(公社)農業農村工学会

### 学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック+用語事典+初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

#### ①ハンドブック3点セット

（ハンドブック+用語事典+初年度会費）

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

#### ②必携3点セット

（必携+用語事典+初年度会費）

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

#### ③2点セット

（用語事典+初年度会費）

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたしません。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学生会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学生会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌2月号掲載の問題は3月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録 (正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業 (水利) 施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠 (造形美、用の美、融合の美) とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業 (水利) 施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 88 巻 (2020 年 1~12 月号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(プリントは「写真用紙—フォトペーパー/滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます)。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 春季 2019 年 6 月 30 日

夏季 2019 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審 査 審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 88 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2020 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History (表紙写真由来) の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文 (500 字程度) をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料 (1 点につき 1 万円) をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は (公社) 農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと) が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称 (固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 学会誌第87巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
第87巻第4号 農山漁村地域の再生可能エネルギーの導入における取組み事例と地域貢献 (仮)	公募終了
5号 常態化する大規模災害とリスクマネジメント (仮)	公募終了
6号 レジリエンス研究と農業農村工学 (仮)	公募終了
7号 大会特集号 (関東支部)	公募なし
8号 農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策 (仮)	3月20日
9号 農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか (仮)	4月20日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

### 第87巻第8号テーマ「農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策」(仮)

農村地域における生活環境の整備は、農業農村整備が大きく担っています。戦後まもなく取り組まれた農道整備事業を端緒に農村基盤総合整備パイロット事業、農村総合整備モデル事業から今日の農村集落基盤再編・整備事業までの環境整備により、農村地域の生活環境の整備水準は都市部地域と遜色ない、あるいはそれを凌駕するまでに至っています。

一方で、道路や水路、農業施設など整備が大きく進んだ1970年代から50年近くを経てそれら生活環境施設の老朽化は進んでいます。加えて、その間に並行してきた過疎化・高齢化などで一部の農村地域では生活空間の縮退も生じており、農村地域の生活環境の内容は大きな局面に差し掛かっています。

今後、人口減少や少子高齢化を背景にして、農村地域社会のドラスティックな構造的変化が予想される中、生活環境の整備の在り方も大きく変わってくるものと考えられます。集落の再編に伴う生活環境施設の統合、田園回帰や二地域居住など交流人口を踏まえた環境整備、上下水道と農業用水・集落排水の一体的な管理など、これまでの生活環境整備の範疇では取まり切れない整備課題が想定されます。

本小特集では、現代の農村地域が抱えている生活環境の実態と課題、今後の農村地域社会の変貌を想定した新たな生活環境整備や維持管理の考え方など、生活環境施設に焦点を絞った農業農村整備の展開方向につながる報文を募集します。

### 第87巻第9号テーマ「農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか」(仮)

国は新たな土地改良長期計画(平成28~32(2020)年度)に基づき、2023年までに担い手が利用する農地面積が全農地面積の8割を占める政策目標を掲げ、農地集積を推進しています。こうした中で、農地中間管理機構が創設され5年経過し、同機構を活用した集積協力金交付事業や機構関連農地整備事業等のさまざまな事業により、すでに5割以上の農地が担い手へと集積されています。

しかし、農地集積の推進とともに離農が進み、土地持ち非農家の増加と農家の高齢化により、農地や農業用水といった地域資源の維持管理作業への参加者が減少しています。このため、とりわけ水管理や畦畔の草刈りなどの作業にかかる担い手への

負担が過度に集中し、労力・時間的な制約から、一定以上の農地の集積・集約化のペースが減速しています。

他方、このような制約を経営の複合化、多角化、他業種との連携などによりブレイクスルーし、100haを超えて経営規模を拡大する農業経営体が、平地に限らず中山間においても出現しています。同時に、このような地域では水管理や生産管理のあり方が従来と異なっており、農業経営体とムラ社会の関わり方についても、大きな変化が生じていると考えられます。

本小特集では、このように大きく農地集積が進んだ地域において、農業の構造的な変化に対応するための基盤整備や基盤データを活用した情報アプリなどを利用した営農の取組み、ま

た地域社会の維持にかかる課題やその対策などについて、広く 報文を募集します。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2018年7月から2020年6月までの編集事務局について**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター (IF) は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (18名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

**編集体制**

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から19名
- ・ **Editorial Advisors** 30名
- ・ **Chief Managing Editor**  
Dr. Kimihito NAKAMURA  
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ **Managing Editors**

**Dr. Jin-Yong CHOI**

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

**Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Hiroshi IKEURA**

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

**Dr. Andrew WHITAKER**

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

**編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)**

・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan  
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

**投稿先** : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

**投稿資格** : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

**投稿要領等** : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

**発行スケジュール** : 年4回 (オンラインジャーナル)

**購読料** : 正会員・名誉会員 12,343円

学生会員 (院生含む) 8,743円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

**申込先** : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

## 平成 30 年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 31 年度農業農村整備関係予算の政府原案が決定されました。北海道胆振東部地震等を踏まえ、農業水利施設の操作、監視状況、災害時の機能維持のために早急な対策が必要な施設について、耐震化対策などの非常時にも機能を確保するために必要な改修、更新等を実施する緊急対策や、平成 30 年 7 月豪雨において多くのため池が被災したことを受け、非常時にもため池の機能や下流の安全性を確保するために必要な改修等の緊急対策が盛り込まれました。地球温暖化等により近年、豪雨災害が増加するとともに、南海トラフなどの大型地震の発生も懸念されております。農業農村についても、これらに対応した防災・減災対策をはじめ、国土強靱化を図っていく必要があります。このため、今年度の東京フォーラムについては、農業農村の防災・減災および国土強靱化等をテーマに最新情報を提供し、農業農村の振興について多くの参加者と情報を共有するとともに、平成 31 年度農業農村整備関係予算政府案について農林水産省の担当官より情報提供いただくことといたしました。会員をはじめ皆様のご参加をお待ちしています。

1. 主催 全国農村振興技術連盟  
(公社)農業農村工学会
2. テーマ 農業農村の防災・減災と国土の強靱化  
～ため池などの農業水利施設の緊急対策・国土強靱化対策の動き～  
(平成 31 年度農業農村整備関係予算政府案の概要)
3. 開催日 平成 31 年 3 月 7 日 (木) 9:50~17:00  
受付は 9:15 から行います。
4. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1  
科学技術館 地下 2 階 サイエンスホール  
TEL: 03-3212-8485
5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

- 9:50~10:00 開会挨拶  
全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹  
(公社)農業農村工学会副会長 山路永司
- 10:00~11:00 1. 講演  
「国土強靱化の現状」(仮題)  
京都大学大学院人間・環境学研究所教授  
内閣官房ナショナルレジリエンス懇談会委員 浅野耕太
- 11:00~11:15 (休憩)
- 11:15~11:50 梶木賞・広報大賞表彰式
- 11:50~13:00 (昼食・休憩)
- 13:00~14:10 2. 講演  
「平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた今後のため池対策」(仮題)  
農林水産省農村振興局整備部防災課長 宮崎敏行
- 14:10~15:20 3. 講演  
「平成 31 年度農業農村整備関係予算政府案の概要」  
農林水産省農村振興局設計課技術調査官 荻野憲一
- 15:20~15:30 (休憩)
- 15:30~16:50 4. 講演  
「農業水利施設の防災・減災対策の研究状況」(仮題)  
農研機構農村工学研究部門災害対策調整室長 梶原義範
6. 参加費 8,000 円 (昼食代は含まず。参加費は当日会場  
申し受けます。)
7. 申込み・問合せ先  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
全国農村振興技術連盟  
TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176  
E-mail: kensyu@n-renmei.jp  
申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ  
(<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧ください。

## 水土文化研究部会第 16 回研究会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



人類史上かつてない急激な高齢化・人口減少を迎えるわが国。従来のような成長が前提ではありえない近未来を、有限の資源を賢く活用し新たな発想で切りひらいていかなくてはならない。

人口のみならず社会全体の縮小化とエイジングを巧く乗りこなし、誰もが自分らしく健やかに生きること、well-being の実現をみざすことが重要ではないか。その際、農村地域では何が大切か、何ができるのか、何が必要か。

地方での well-being / 地方自体の well-being について考えてみたい。

1. テーマ 地方 <sup>じかた</sup> well-being !!

2. 日時 平成 31 年 2 月 27 日 (水)  
13:30~16:30
3. 場所 農業土木会館 2 階 A 会議室  
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4  
TEL: 03-3434-0461
4. プログラム  
講演:  
「地方 well-being !!」 京都大学大学院地球環境学学術教授  
食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会長  
渡邊紹裕  
コメンテーター: 筑波大学研究員・法政大学講師 堀川洋子

農林水産省農村振興局設計課計画調整室長  
石井克欣

農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域  
地域エネルギーユニット長 後藤眞宏

パネルディスカッション：講演者+コメンテーター

コーディネーター：水土文化研究部会 広瀬 伸

5. 参加料 無料

6. 申込み・問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域

地域エネルギーユニット ユニット長 後藤眞宏

TEL：029-838-7548 FAX：029-838-7609

E-mail：griese@affrc.go.jp

7. 参加申込要領

整理の都合上、2月20日（水）までに以下の要領にてお申し込みください。

氏 名	(CPD 番号)
所属機関	
所在地	
電話番号	
FAX 番号	

\*部会員以外の方も参加できます。

平成 30 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、平成 30 年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成 31 年 3 月 9 日（土）14：00～17：00

2. 場 所 東京農業大学世田谷キャンパス

1 号館 1 階 112 教室

東京都世田谷区桜丘 1-1-1

最寄駅：小田急線経堂駅下車 徒歩 15 分

3. テーマ 農業用水管理と ICT（仮）

4. 題目および講演者

水田灌漑での ICT 利活用の状況と課題（仮）

東京大学 飯田俊彰

ICT を活用した稲作水管理の省力化技術と評価手法

農研機構農村工学研究部門 坂田 賢

水管理システムの自動化・知能化（仮）

農林水産省関東農政局 進藤惣治

5. 参加費 無料

6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之

TEL&FAX：028-649-8638

E-mail：matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

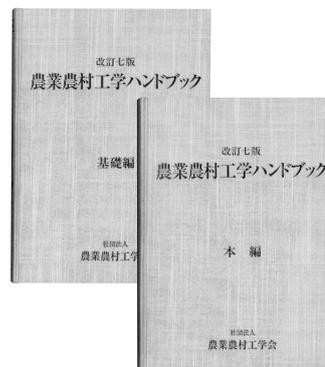
改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は、学会創立 80 周年の記念出版事業として、農業土木学会から農業農村工学会への学会名称の変更等をふまえ、「改訂六版農業土木ハンドブック」を改訂したものです。

今回の主な改訂点は以下のとおりです。

- ・判型：B5 判・8 ポイント組、本編・基礎編の 2 分冊としました。
- ・販価：対象読者層の若手技術者および学生層を考慮し、出版を農業農村工学会独自で行い、購入しやすい価格を実現しました。
- ・構成：本編（6 部構成）、基礎編（6 部構成）、付録編（農業農村工学教育）の構成としました。
- ・内容：改訂六版の精神を継承した上で、現代の農業農村工学を体系づけるものとし、新分野の拡充と既存分野を整理・統合しました。さらに、基礎編は、JABEE 認定プログラムに配慮して構成しました。



体 裁：B5 判 本文約 1,250 ページ  
(本編約 800 ページ 基礎編約 450 ページ)  
定 価：20,571 円 (税込)  
会員特価：16,458 円 (税込)  
送 料：1 セットにつき 200 円

発行：公益社団法人 農業農村工学会  
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494  
E-mail：suido@jsidre.or.jp  
学会ホームページ：http://www.jsidre.or.jp/